

平成30年度 国際高等学校学校評価

1 教育方針

- 1 国際社会に貢献できる人材の育成
2 自ら発信し、多文化・多言語も受容できる人間の育成

【学校評価実施方法】

- (1)今年度の各部・年次の実践目標の項目について、本校全教職員による「4段階評価」を実施する。
4・・・よくできている 3・・・できている 2・・・あまりできていない 1・・・できていない
(2)集計については、各項目ごとに平均をとり、その平均値について次の基準でA～Dの達成段階をつける。
平均値⇒達成段階 1.0≤x<2.0 ⇒D, 2.0≤x<2.8 ⇒C, 2.8≤x<3.5 ⇒B, 3.5≤x≤4.0 ⇒A

2 学校評価

校務分掌	実践目標	具体的な取り組み	達成段階	評価4の人数	評価3の人数	評価2の人数	評価1の人数	平均点	本年度の取り組みと次年度への課題・具体的な改善方法	備考
管理職	1 教職員の勤務状況を把握し、教職員の勤務の適正化に結び付ける。	①すべての教職員に従事時間申告書を提出してもらい、教職員の勤務時間の適正な把握を行う。 ②毎週月曜日を定時退勤日、ノー会議デー、ノー部活デーに設定し教職員が退勤しやすい環境づくりをする。	B	2	22	8	0	2.8	①従事時間申告書の提出をいっそう呼びかけ、先生方の勤務時間の適正化につながるよう推進していきたい。 ②ノー会議デーについては、先生方の協力のおかげでほぼ実施できた。	
	2 勤務時間の割振り変更や週休日の振替(代休設定)等を計画的に実施することで、教職員の健康管理に努めるとともに勤務の適正化に結び付ける。	①事前に該当教職員に連絡し、教職員が計画的に勤務時間の割振り変更や週休日の振替が適切に実施できるようにする。 ②教職員の勤務状況に応じて柔軟に対応する。	B	8	20	4	0	3.1	業務等で週休日の振替日に休めないことが予想される場合、振替日の再設定等柔軟に今後も対応していきたい。	
総務部	1 会議の効率化と施設の管理・予約を確実にする。	①職員会議資料の前日配付。 ②施設予約の徹底と中等教育学校との連絡の徹底。	B	10	18	4	0	3.2	会議の効率化と施設の管理・予約を確実にしよう努力した。施設については、中等教育学校との連絡を密にするよう努力した。オープンハイスクールについては総務部の人員不足で苦慮しているが、できるかぎり改善して行きたい。ホームページもできるかぎり刷新できるように努力したい。防災マニュアルについてはよりよいものになるよう、研修会などの成果を取り入れた。清掃・健康面においても、生徒の学習環境を、よりいっそう整備できるよう取り組みたい。	
	2 オープンハイスクール・学校ホームページなどの広報活動の効果的な実施。	①オープンハイスクールの年3回実施。 ②ホームページをよりよいものにするための検討。	B	7	18	6	1	3.0		
	3 防災マニュアルの改善と防災避難訓練の効果的な実施。	①東南海地震を想定した津波対策の検討。 ②アラートや不審者対策などにも対応したマニュアルの改訂。	B	5	25	2	0	3.1		
	4 平常時、諸行事前とも、学習活動にふさわしい環境を整える美化活動を推進する	清掃用具の更新、充実など、生徒や職員が美化活動に取り組みやすい条件整備を進める。清掃区域の見直しなど、美化活動体制の再編、効率化をはかる。	B	2	24	6	0	2.9		
	5 思春期における心身の健康の保持、増進を家庭の協力の下に指導する。	生徒の健康状態の把握に努めるとともに、自己評価(自己肯定感・自尊感情)を育むための情報提供、支援を積極的に推進する。	B	4	25	3	0	3.0		
	6 行事、授業時の事故や傷害などの防止、および防災、安全に関する意識啓発、対応技術の向上に取り組む。	各種行事前の健康相談を実施するとともに、「保健だより」等を通じての意識啓発をはかる。生徒および職員を対象とした自動体外式除細動器(AED)を使用した救急法講習会を実施する。	B	5	26	1	0	3.1		
教務部	1 進路実現に向けた教育課程の編成	生徒の進路実現に必要な学習が可能となるよう、選択群等と科目の配置について検討する。	B	6	26	0	0	3.2	H31年度の目標「教育課程の編成」 生徒の興味や関心に対応すること、進路実現の支援となるよう選択科目の配置や開設の検討を行う。	
	2 次期学習指導要領に向けた教育課程の編成	研修会等を実施し、改訂の背景や方向性について研究する。	B	2	25	4	0	2.9	H31年度の目標「次期 学習指導要領の実施に向けた教育課程の検討」 H30年7月度に公示された学習指導要領に基づき、必修教科目等の設定と開設単位数について検討する。	
	3 校務支援システムの運用	平成29年度から導入された校務支援システムを円滑に運用するとともに、システムのより良い改善に努める。	B	11	21	0	0	3.3	H31年度の目標「校務支援システムの運用」 校務支援システムの円滑な運用と、教員の支援を行う。(システムの改善については、委託業者が対応しないことが多く、十分な回答が得られない案件がある。	
進路指導部	1 進路指導体制の整備	①部内で年次担当を配置し、各年次との連携強化をはかる。各年次の進路・学習状況の実態を把握・共有し、支援の充実をはかる。 ②模試運営の支援やデータの分析、提供につとめる。	B	3	27	2	0	3.0	今年度の取り組み 1. 進路指導体制の整備 各年次担当を決め、進路HR計画や内容について事前に協議する体制を整えた。年間模試計画に沿って、特に校外模試のとりまとめや事務処理を担当した。模試データについては、年に2回経年比較のデータを提供している。Japan e-Portfolioの1・2年次への導入 2. 主体的な進路選択能力の育成 年間計画に沿って、進路HR、各年次の進路集会、進路保護者会を開催し、情報の提供や進路学習機会の提供に努めた。また、必要に応じて進路集会などを企画開催した。 3. ガイダンス機能の強化 昼休みと放課後に進路指導室を開室し、生徒の来訪に備えた。大学関係者の来校には極力対応し、過年度入試の傾向や新年度入試情報の提供に努めた。 次年度への課題・具体的な改善方法 進路行事について年次団との共通認識の形成をさらにはかる 3年間を見通した進路指導計画の再構築をはかる Japan e-Portfolioの活用促進 → 定期的な部会を開き、意思疎通、情報、意見交換につとめる	
	2 主体的な進路選択能力の育成	進路HR、職業人講演会、進路集会などを通じて、生徒の進路実現に向けての意識を高める。また、適宜保護者会を開催して、進路指導方針についての理解を深めてもらい、家庭への適切な情報提供をはかる。	B	5	25	2	0	3.1		
	3 ガイダンス機能の強化	①進路指導室の環境整備につとめ、開室時間を明確にして、生徒の利用促進をはかる。 ②最新の入試情報収集につとめ、年次団・生徒にすみやかに伝達する。	B	6	24	2	0	3.1		

校務分掌		実践目標	具体的な取り組み	達成段階	評価4の人数	評価3の人数	評価2の人数	評価1の人数	平均点	本年度の取り組みと次年度への課題・具体的な改善方法	備考
生徒指導部	1	職員の生徒指導情報の共有	全職員が共通認識のもと、生徒指導にあたる。	C	2	21	7	2	2.7	個々教員が生徒に迎合して指導する場面が多く見られた。組織としての取り組みが理解されない中、引き続き根気強く、共通認識を得られるよう働きかける。	
	2	いじめ防止への対応	「学校いじめ防止基本方針」点検・見直しを行い、いじめの未然防止、早期発見のための体制を整備する。	B	5	24	2	0	3.1		
	3	生徒活動の支援	生徒会執行部を中心に、生徒会行事、部活動など、生徒の自主的な活動を支援する。	B	4	19	7	2	2.8		
国際教育部	1	異文化理解の推進	他校のALT約30名を招聘し、7月末に1、2年次対象の国際交流セミナーを実施する。	B	14	16	2	0	3.4	地域社会貢献については一部の生徒に活動が限定されている。今後はさらに活動を全校生徒を対象にしたものへと拡大させていきたい。また、部内でのコミュニケーションを密にして、他の部署との情報の共有を図り、協力して問題解決に当たりたい。次年度の海外研修や国際交流セミナー等の主要な行事では、主導的な役割を担っていきたい。	
	2	地域社会貢献活動	芦屋特別支援学校を訪問し、1年次生約30名が英語出前授業を実施する。	B	7	22	1	0	3.2		
	3	異文化体験の推進	2年次生がイギリス、アメリカ、カナダの3カ国を訪問、現地での学校交流、ホームステイ、視察研修を行う。	B	12	16	4	0	3.3		
1年次	1	基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図り、幅広い基礎学力を養う	日々の生活リズムの確立、スケジュール管理、学習計画など自己管理に取り組ませるとともに、授業やその後の復習を大切にすることを養い幅広い基礎学力の定着を図る。	B	6	24	2	0	3.1	日々の生活リズム、学習習慣が確立できている生徒も多いが、学期が進むごとに欠席や遅刻が増えるなど、一方で、入学時の緊張感を失い、緩慢な生活態度、家庭学習が不十分な生徒も目に付くようになった。節度ある学校生活が送れるように指導を進めたい。 研修会の実施で「大学入試共通テスト」に関する職員の理解を深めることはできた。しかし、新しい入試制度に向けた進路指導と職員の理解、生徒の学力についての把握など、まだ不十分と考える。次年度には進路学習、および、年次会議を利用した職員の入試制度に関する理解・生徒の十分な学力把握を進めたい。	
	2	自ら進路を開拓する力を育成し、サポートできる体制をつくる	語学検定試験等を積極的に活用し、また、研修会等の実施により「大学入学共通テスト」への職員間の理解を深め、生徒・保護者への適切な対応を心がける。	B	4	28	0	0	3.1		
	3	公共心を養い、多様な価値観を受け入れる気持ちを育む	しっかりと清掃活動に取り組むなど公共心を養い、SGH、海外研修への準備等を通じて他国の文化・社会への理解を深める。	B	7	25	0	0	3.2		
2年次	1	基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図り、基礎学力を定着させること	学校生活のリズムを確立し、学習計画を立てた上で、毎日の授業を大切にす。課題にもしっかりと取り組みながら、予習・復習を確実にこなし、基礎学力を定着させていく。	C	1	21	9	0	2.7	2年次になって欠席や遅刻が増えた生徒も多くいた。起立性調節障害を始めとして身体的調子が悪い生徒も多い。また、内面に精神的な悩みを抱えている生徒も多く見られる。それらの問題も含めて年次団を中心に一人一人の生徒としっかりと向き合っていく必要がある。進路に関してはまだまだ具体的に絞りが切れていない生徒も多く明確に目標を設定させて学力をつけていかねばならない。SGHの取り組みや海外研修に対する取り組みは全体としてはよくやっていたように思われる。	
	2	向上心を持ちながら、将来の進路をしっかりと考えて実現できるようにサポートすること	①模擬試験・語学検定試験等を積極的に活用させる。 ②進路情報の丁寧な提供を心がけ、生育環境、家庭環境等にも留意しながら生徒・保護者に適切に対応し、進路指導を行う。	B	3	26	2	0	3.0		
	3	公共心を大切に、多様な文化や価値観を受け入れる心を育てること	SGHへの取り組み、海外研修への準備・参加等を通じて多様な文化・社会への理解を深める。家庭、教育相談、医療機関等と連携した生活指導を行う。ネットワーク社会の功罪についてしっかりと学習し、被害者・加害者にならないよう心がける。	B	3	26	2	0	3.0		
3年次	1	基本的な生活習慣・学習習慣を確立させること	①スケジュール管理、学習計画および振り返りなどの自己管理を行わせる。 ②毎日の授業、課題を大切に組みませ、提出物を確実に提出させる。	B	5	26	0	0	3.2	推薦・AOなどで早々に進路を決めた者の勉強へのモチベーションの継続、進路未決定者との温度差の解消に課題を感じた。進路未決定者が集中して勉強に取り組める環境作りを最優先していきたい。	
	2	向上心を持ち、希望する進路を実現できるようにサポートすること	①模擬試験・語学検定試験等を積極的に活用させる。 ②進路情報の丁寧な提供を心がけ、生育環境、家庭環境等にも留意しながら生徒・保護者に適切に対応し、進路指導を行う。	B	5	26	0	0	3.2		
	3	公共心を大切に、自己にも他者にも誠実である態度を育てること	①家庭、教育相談、医療機関等と連携した生徒指導を行う。 ②ネットワーク社会の光と影に十分留意し、被害者・加害者にならない利用を心がけさせる。	B	4	27	0	0	3.1		